



参勤交代の利便性を優先し、
谷田部へ移転した細川家。

歩いて発見。
谷田部
街道めぐり **歴史編**
谷田部落主細川氏は、
茂木町から谷田部へ移転。
江戸後期の財政難を救った豪商の存在とは？

つくば市谷田部
活性化協議会



谷田部落への借金
約1100両を清算!?

※100両は、現代の価値で約1億円相当



初代藩主細川興元氏。
兄は、細川忠興、義姉はガラシャ。

谷田部落初代藩主、
細川興元

関ヶ原の役後、細川興元は徳川氏に仕え、慶長15年（1610）に下野国茂木1万石を与えられた。細川氏は清和源氏の流れをくみ、長岡藤孝（細川幽斎）や、その子で熊本54万石の祖となった忠興を輩出した家柄である。忠興の弟・興元は、朝鮮侵攻や関ヶ原の役で活躍し、家康は興元を10万石の大名に取り立てようとしたが、兄忠興が「弟は10万石を治める器ではない」と固辞したため、興元には10万石の格式のみが与えられた。元和2年（1616）には常陸国谷田部6200石余を加増され、

※家老の三岡道徳が藩祖 興元の姿を描いた絵画「大光霊神御姿絵（八雲神社蔵）」を元に描き起こした。

1618年、茂木から谷田部へ
茂木と合わせて1万6000石余の大名となった。
興元は兄が10万石への加増を断つたことを知って激怒し、その後、熊本54万石の本家と数百年にわたり不和になったと伝えられている。

細川氏の下野茂木領は江戸から約140kmと遠く交通も不便だったのに対し、新たに加増された谷田部領は江戸から約60kmで道路も平坦だったことから、参勤交代などの経費や利便性を考慮し、元和4年（1618）に興元の子・興昌は本城を茂木から谷田部へ移したと考えられる。興昌は中世の谷田部城跡ではなく集落に近い低地を選び、約2万2000㎡の敷地に陣屋を設置した。

城下町の形成

二代藩主興昌は陣屋の設置とともに城下町の整備にも力を入れ、大手門から江戸へ通じる街道を整備した。また、現在に残っていない不動並木もこの頃に植えられたと考えられる。町内の道路を陣屋付近で直角に曲げるなどの整備も行い、北東の小渡山には鬼門よけとして医王寺を建立した。

近世の谷田部年譜

1610年 慶長15年
1616年 元和2年
1618年 元和4年

初代藩主 細川興元、茂木1万石を領す。
興元、大坂夏の陣の功により谷田部6千石余を加増。
二代藩主 興昌、本陣を谷田部に移し 谷田部陣屋を設置する。
台町の薬師内に医王寺を建立。不動並木を植樹、街道を整備する。

1619年 元和5年
1625年 寛永2年
1643年 寛永20年
1690年 元禄3年
1737年 元文2年
1737年 元文2年
1762年 宝暦12年
1773年 安永2年
1784年 天明4年
1786年 天明6年
1787年 天明7年
1789年 寛政元年
1794年 寛政6年
1802年 寛政14年
1810年 文化7年
1817年 文化14年
1822年 文政5年
1824年 文政7年
1833年 天保4年
1834年 天保5年
1835年 天保6年

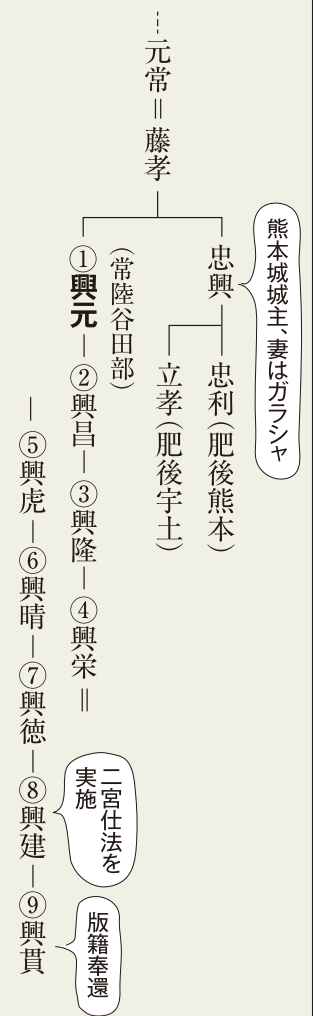
初代 興元、歿す。(56歳)
羽成山普賢院実城寺を再建。(由良氏1591年に建立したもの)
二代藩主 興昌、歿す。(40歳)
三代藩主 興隆、歿す。(59歳)
四代藩主 興栄、歿す。(80歳)
五代藩主 興虎、谷田部にて歿す。(26歳)
飯塚伊賀七(からくり伊賀)誕生。
谷田部領飢饉。
前年の浅間山大噴火により谷田部領大飢饉。
谷田部領大水。
谷田部領飢饉。
熱病流行し、名主等が内町八坂神社に病氣平癒を祈願。
六代藩主 興晴、歿す。(59歳) 谷田部落の藩校「弘道館」開館、茂木領にも設置。
羽成観音、普賢院が再建される。
飯塚伊賀七、下総布施弁財天の「多宝造鐘楼堂」設計。
下総布施弁財天の「多宝造鐘楼堂」伊賀七の指導のもと建立。
伊賀七、木製大時計が完成し 町民に時を知らせる。
谷田部領大水。
谷田部領大凶作(天保の大飢饉起こる)。
中村元順(勘農衛)、二宮尊徳を訪問し、谷田部落復興の指導を依頼。
二宮尊徳、谷田部落に復興仕法書を授け、中村勘農衛、仕法を実施。
二宮仕法の協力者として金屋治郎兵衛、和泉屋吉左衛門らを褒賞。茂木能持院(曹洞宗)全焼。
金屋治郎兵衛らが細川氏への借金を義損。飯塚伊賀七(からくり伊賀)歿す(75歳)。
七代藩主 興徳、歿す。(79歳) 細川氏の本家、谷田部落への借金6万余両を義損。
八代藩主 興建、大坂城詰めとなり二宮仕法を一旦中止する。谷田部領凶作。
谷田部領凶作、二宮仕法を再開。
二宮尊徳 幕臣となり、二宮仕法断絶する。
谷田部領内大洪水(丙午の大水)、田畑多数水損する。
八代藩主 興建、歿す。(58歳)
中村勘農衛、歿す。(57歳)
九代藩主 興貴、版籍奉還し谷田部落の知藩事となる。
茂木藩は茂木県となり、谷田部落は新治県に入る。
谷田部村、茨城県に入る。

江戸～明治時代
谷田部の歴史。



飯塚伊賀七

細川氏の系図



詳細資料

国立国会図書館の「二宮尊徳関係資料リスト」に、谷田部関係の項目として「金屋次郎兵衛(治郎兵衛)の仕法」などがまとめられている。

◎国立国会図書館サーチ

<https://ndlsearch.ndl.go.jp/>

谷田部の昔と今を知る!

「谷田部街道めぐり」の
バックナンバー

第1弾から第6弾までのPDFを掲載しています。



谷田部の
歴史を知る!

谷田部
郷土資料館

郷土の文化財、遺物、古文書の歴史資料などの展示をしています。谷田部落細川氏の展示資料、江戸時代の発明家「飯塚伊賀七」が製作した木製和時計の復元品もあります。

つくば市谷田部4774-18

(谷田部交流センター3階)

tel.029-836-0139

◎開館時間 10:00~16:00

◎休館日

毎週月曜日・祝日・

年末年始(12月29日~1月3日)

◎料金 無料



◎編集後記
市井の商人であった釜屋治郎兵衛の資料収集に当たっては、詳細な参考文献が少なく、ご子孫の三上正市氏からお話等を伺いながら纏めました。治郎兵衛さんは、恐らく報徳思想に感銘を受け、自ら進んで債務の棄損(金千百余両、現在の価格で約一億円)を申し出たのではないでしょう。茂木町への取材の帰路、恐らく暖簾分けと見られる釜○商店○釜新など、谷田部でも馴染みある釜屋の屋号を称した看板を見つけ、茂木との距離が一気に縮まった日でもありました。

M記



つくば市谷田部活性化協議会 facebookページ

<https://www.facebook.com/yatabe.tuskuba>

史実や資料のご提供、
お待ちしております!

企画・発行 令和8年10月1日 編集・制作 つくば市谷田部活性化協議会・(株)キャンパス
協力 曹洞宗能持院・八雲神社・三上正市・つくば市 都市計画部 周辺市街地振興課
出典 谷田部郷土資料館・谷田部の歴史
協賛 (株)都市開発・今川医療福祉法人・日本都市開発(株)・(株)イズミ・(株)若柳建築事務所

